

TOPICS

令和4年度入学式を挙行 4/3

学生が一同に会して入学式が挙行されるのは新型コロナウイルス感染拡大前の平成31年度以来となりました。本年4月に開設された文理融合型の研究科である「創発科学研究科」は、初めての新生を迎えることとなりました。学長から「人間は、皆で支えあって、力を結集するともっとすごいパワーを発揮し、不可能と思われたことも可能にする潜在力があります。香川大学では一人ひとりの学生の

個性を大切に、全ての学生が大学生活を通して学びを深め人間として大きく成長する様に、教職員一丸となって皆さんをサポートします。」との告辞がありました。また、教育学部3年 西内 愛育さんから、新生へ向けて「自ら学びチャレンジする力。自分自身をマネジメントしていく力。コミュニティを広げていく力を大切に、大学生活を送ってください。」との祝辞が述べられました。



DRI教育について新生たちに講義をする学長

新生歓迎祭 2022 4/7

昨年度に引き続き、感染対策として、入り口での検温・手指消毒の実施、ビラ配りや大声での勧誘を中止し、グラウンドでのサークル紹介と講堂での演奏等のパフォーマンスに限定して行われました。グラウンドでは100を超えるサークルやプロジェクト団体によるブースが並び、先輩学生が熱心に勧誘する姿が見られました。



グラウンド入り口での検温の様子



紹介ブース（学生プロジェクト「KAGAWA Maker」）

“全国初”の地域ブロック全域での大学等連携推進法人の認定 3/31

一般社団法人四国地域大学ネットワーク機構は、令和4年3月31日に、文部科学大臣から、「大学等連携推進法人」の認定を受けました。「大学等連携推進法人」の認定は全国2例目で、都道府県を越えた地域ブロック全域での認定は、全国初となります。このたびの認定を受け、四国地域大学ネットワーク機構では、

それぞれの大学が持つ強みと独自性を活かしながら、四国地域の発展と持続可能な地方分散型社会の実現を目指します。

法人設立式（左から、代表理事 山下一夫、専務理事 野地澄晴、理事 大橋裕一、理事 櫻井克彦、副代表理事 寛善行）



留学生と日本人学生が瀬戸内オーシャンズX「海ごみゼロチャレンジ in 瀬戸内漁港」に参加 3/19

本学から留学生を含む18名が参加しました。瀬戸内オーシャンズXとは瀬戸内海に面した4県（岡山、広島、香川、愛媛）と日本財団とが海洋プラスチック問題の解決に向けて共同で実施しているプロジェクトです。香川大学の他、地元の方々や高松中央卸売市場、瀬戸内漁協、高松市役所、香川県庁、海ごみリーダーなど約120名の方々と一緒に高松

漁港周辺で調査を兼ねたごみ拾いを行いました。ペットボトル、タバコフィルター、食品の包装、食品容器、生活雑貨、ロープひもなどが多く見られ、ごみの回収量は152袋（30Lごみ袋）、245kgになりました。参加した学生からは「一人であまりできないが、皆さんと一緒にするとごみをたくさん拾えて、達成感があった」などのコメントがありました。



留学生・日本人学生の清掃活動中の様子



香川大学

KADAIGEST 2022 4



①面あり! ②試合直前、チームで士気を高める ③多くのOBの方々に来ていただき、とても盛り上がった新年会 ④稽古風景

香川大学 剣道部

剣道といえば、どんなイメージが思い浮かびますか？暑そう、臭そう、痛そう、、、など、マイナスなイメージが出てくるかもしれませんが、剣道は人を敬う気持ちや礼儀作法を大切にしており、知れば知るほど奥深い競技です。そんな剣道が大好きな、私たち香川大学剣道部は男子16名、女子13名の計29名で活動しています。「当たり前のことを当たり前にする」をモットーに、「全国大会ベスト8」を目指して日々励んでいます。稽古をただこなすのではなく、部員一人ひとりが考え、試行錯誤してお互いを高めあうことを大切にしています。

週5日の稽古のほか合宿や大会等様々な活動がありますが、楽しむときは楽しみ、やる時は真剣にやる、とメリハリをつけて取り組んでいるのが剣道部の良い所です。また、部員全員が個性豊かですがとても仲が良く、私生活でも部員同士で楽しそうに過ごしている姿をよく見かけます。そんな剣道部の楽しい日常を見たい方はぜひInstagramをのぞいてみてくださいね。かけがえのない仲間との思い出を作りたいそのあなた、私たちと一緒に剣道しませんか？経験者も初心者も大歓迎です！道場でお待ちしています。

活動場所・武道場
活動時間・月木 7:00 ~
火金 18:30 ~
土 10:00 ~
部員数 ・29名
Instagram ・@kadai.kendo
HP ・<https://www.5.hp-ez.com>
連絡先 ・090-7987-6374



試合前に大好きなバナナで元気チャージ

教育学部4年 藤島汐里
高松商業高等学校 出身

VOICE 防災「はじめる」プロジェクト（香川大学防災士クラブ） 被災地の復興から香川の防災につなぐ



香川大学防災士クラブの同期とともに3人でプロジェクトを開始し、クラブで活動紹介をした際に、2人の後輩が興味を持ち参加してくれました。

コロナ禍でも、香川県の防災力向上や被災地の復興支援のためにできることがしたい。そんな想いでこのプロジェクトをはじめました。私たちが所属する香川大学防災士クラブは、被災地で復興支援ボランティア等を行っていました。感染症の影響で被災地での活動が減少したため、このような状況でもできる活動を企画し実行しました。代表的な活動を紹介します。

1つ目は被災した地域の方々の声を伝える映像制作活動です。香川大学防災士クラブと以前より交流のあった熊本大学熊助組の方に、熊本豪雨災害被災地の現状を伺い、まだ復興していない地域も多く、被災を風化させないでほしいというニーズがあることを知りました。これを踏まえて、「熊本の被災を伝え、香川の防災につなげられる映像」を制作しました。

2つ目は防災ハンドブックの制作と地域での防災啓発活動です。防災啓発活動において、実際に防災行動をはじめてもらうことが最も

重要であると考え、「はじめる」きっかけとなる防災ハンドブックを制作しました。また、この冊子をもとに地域の防災イベントに参加し、「我が家の防災計画を立てるお手伝い活動」を実施しました。計71組約200名の子どもやご家族が参加して下さい、中でも知的障害を持つお子様の保護者の方から、要支援者の避難についてご相談があったことが印象に残っています。「相談しにくいことを相談できて良かった。」と感謝のお言葉をいただき、活動意義を実感することができました。

これらのほかにもパネルの制作・展示、標語コンテストの開催、オープンキャンパスでの活動などを行いました。たくさんの地域の方を巻き込んだことで、微力ながら地域の防災力向上に寄与できました。またこのような広報活動を通じて、制作した動画を見てもらい、熊本の被災を風化させないことにも尽力できたと考えます。そして、今後も引き続き社会状況に応じた災害ボランティア活動を行おうと考えています。度重なる活動制限により何度も計画を変更し

なければならない状況に直面しましたが、メンバー全員が積極的に意見を出して参加してくれたことで、臨機応変に対応できました。ときには、地味な作業ばかりで活動意義を感じられない時期もありました。しかし、自分の時間を使い被災地や地域の方の役に立てると信じて一生懸命に活動するメンバーたちの様子には、ボランティア活動の尊さを感じました。最後に、学生支援プロジェクトとしてご支援いただきました学生生活支援課ご担当者様をはじめ、本事業に関わっていただいたすべての方々に感謝申し上げます。



制作した動画はこちらからご覧いただけます。
(香川大学公式 YouTube)



創造工学部4年
長澤 怜真
兵庫県立網干高等学校出身



豪雨災害から1年以上経過した熊本県八代市坂本町の様子。家が流されており、災害の恐ろしさと、この地域の復興状況が読み取れます。これには坂本町の高齢化率の高さなどが背景にあります。



現地で取材・撮影を行っていただいた、熊本大学工学部公認ボランティアサークルの「熊助組」の方々。



我が家の防災ハンドブック。自治体の既存のものなどを参考にしながら、子どもがいる香川県のご家庭にあったものを作成しました。災害時の避難計画を事前に立て、玄関においてもらえるように設計・デザインしました。



大学祭では標語コンテストを開催。標語作成のヒントとして熊本の災害についての展示パネルや、被災者の声を伝える映像を放映しました。



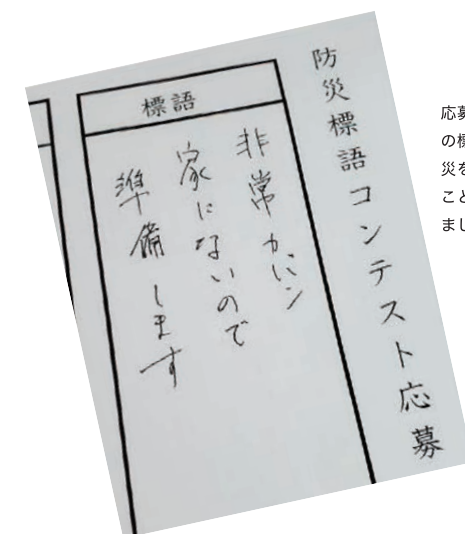
熊本大学公認ボランティアサークルの「熊助組」に撮影協力をいただき、熊本の被災を伝える映像を制作しました。被災された方からのお話は非常に貴重で、防災について考え、対策を「はじめる」きっかけになると考えます。



動画編集とアニメーション用イラスト作成の様子。全員にとって初めての動画制作には、想像していなかった膨大な量の作業が待っていました。



防災イベント開場を前に緊張を隠し切れない2年生（左）と久しぶりの地域の方との活動で心躍る3年生（中央）（当時）



応募いただいた標語には決意表明の標語もありました。香大生の防災を「はじめる」きっかけとなることができ、活動意義を実感できました。